第51回 事業所訪問

こんにちは健保組合です！

株式会社根本運送（香取市）の巻

今年の冬は、地球温暖化の兆候が本格的に現れ、深刻かつ記録的な暖冬となりました。桜の開花予想も平年に比べ一週間ほど早く、冬眠から目覚める昆虫たちも早起きしてしまい、夏にはいなくなってしまうのでは、という心配もしてしまいます。

異常気象による自然災害が懸念されますが、日本特有の四季折々を、いつまでも楽しめることを願いたいと思います。

＊　＊　＊

桜の開花が待ち遠しい三月七日、第五一回目の事業所訪問として香取市に所在する株式会社根本運送へお邪魔させていただきました。

本社のある香取市は、平成十八年三月に佐原市・小見川町・山田町・栗源町が合併して誕生しました。千葉県の北東部に位置し、世界への玄関、成田空港からほど近く、北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がっています。また、南部には、山林と畑を中心とした平坦地が北総台地の一角を占めています。

少々の肌寒さを感じましたが、青く澄み切った快晴の空の下、「こんにちは健保組合です！」と事務所を訪ねると「こんにちは！」と社員の方々に迎えていただき、応接室に案内されました。しばらくすると、根本社長が「お世話になります」と入室され、社会保険事務を担当されている土屋氏を加えて、取材が始まりました。

根本社長（右）と土屋氏

根本運送は昭和五十五年六月に設立され、根本社長は三〇歳という若さで荒波のなかへ出航されました。設立当初は、乳製品やサツマイモ・にんじん・大根などの青果物や、工業製品の輸送を主体に営業展開していたそうです。六年ほど前からは「提案営業」という形で３ＰＬをめざし、複数の荷主に採用されています。３ＰＬとは、物流センターの運営や保管・在庫管理・流通加工・発送と商品の流通に深くかかわることで荷主のパートナーとして、ともに効率化を図るというものです。

トータル物流サービスの（株）根本運送

三年ほど前には、りんくう物流センターを竣工し、成田営業所ということもあり、本格的に空港関係の業務にも携わるほか、コンビニエンスストアの経営など幅広い業務を担ってこられました。現在では、グループ会社も含め年商五〇億円、社員数三五〇人超を擁する企業に成長されています。

逆風を追い風に変える強さ

根本社長は、社員集めに大変気をつかっていらっしゃる様子で、当然のごとく荷主からは安全と安心を求められるため、キャパシティやボリュームの大きさ、接遇に対して高いレベルの社員を獲得した企業が勝ちを得る、との持論を熱く語られました。

三年ほど前に、運送業界が大打撃を受けた、排ガス規制によるＤＰＦ装着などのために六千万円ほどの負担や、運賃の過渡期による値下げが生じたことと燃料の高騰が重なり、同社は危機感をもったそうです。しかし燃料代の高騰も小康状態となり、また逆風を材料に合理化を図ることで業績を伸ばすという企業努力の結果、グループ全体で年間一億円超の利益になったとのことです。

根本社長を軸にグループ全体が一丸となることで、厳しい状況にも立ち向かえるという、強い企業のあり方を垣間見ることができました。

相互扶助の精神と強い絆

現代社会は、膨大な情報や多種多様な物流ニーズを要求しており、単独では提供困難な状況も、根本運送は日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会に加盟することで、この困難をも打破してきました。

ローカルネットワークとは、全国の中小トラック運送事業者が、知恵と情熱で構築した日本で最大の情報量と「求荷求車」の物流ネットワークシステムのことです。根本社長は、平成十五・十六年度には本部にて役員を務め、現在は協同組合ネットワーク千葉において理事長の大任を担っておられます。

あらゆるリクエストに対応できる輸送体制

「一本の矢は折れても、三本の矢は折れぬ」の言葉のとおり、結束することにより何倍もの力になり、あらゆる業界において繁栄と存続への近道になるのではと素人ながらに思った次第です。

根本運送においては、業務の多様化に伴い、最近では社員が一堂に集まる機会も少なくなりましたが、それでも、唯一会社の行事として実施しているグループ新年会には、二五〇名程度の参加者があるそうです。人のつながりは、生きていくことに必要不可欠なものです。皆さまの周りの家族や友人、先輩や後輩などと強い絆で結ばれていることは人生の宝物です。宝物をなくさないよう、大事にしてください。

事業所対抗野球大会に強敵現る!?

社員数が多く平均年齢も若いため、「野球チームをつくり当健保組合で実施している事業所対抗野球大会に参加しませんか？」と呼びかけたところ、「野球チームあるんですよ！」とのことでした。「それではぜひご参加を」とお誘いしたところ、「野球よりお酒のほうが…」とおっしゃっておりましたが、その雰囲気からは優勝を狙っているかのようなオーラを感じました。相当な実力のエースピッチャーを、現在けがで欠いているものの大会までには間に合う、とのことなので、参加予定の事業所は要チェックなのでは…？

新勢力が台風の目となるか、古豪の復活があるか、常勝軍団が返り討ちか、と今年の野球大会は一波乱も二波乱もあり、一筋縄ではいかない様子がいまから漂っています。

＊　＊　＊

取材の最後に健保組合への意見・要望などをお伺いしたところ、「処理が遅くなることもなく、特にありませんよ！」との言葉を頂戴し、健保組合への信頼度が感じられました。今後そういった気持ちを裏切らぬよう、迅速かつ正確な事務処理や保健事業の充実など、よりいっそうの努力が必要だと認識しました。

取材を通して根本社長の社員を想う優しさと、そのなかにある厳格な人柄が根本運送を一代で築き上げた礎になっているのでは、と感じました。職場では、自らが積極的に社員とコミュニケーションをとるなど活気にあふれており、ドライバーを含めた社員の士気は高く、いま以上の発展を信じて取材を終えました。

ご協力いただきました根本運送の皆さま、貴重な時間をありがとうございました。

＊　＊　＊

二〇〇二年一月から始まった景気回復は第二次世界大戦後最長となっていますが、今回の景気回復期間の内容は過去とは大きく異なっており、バブル期と比較すると、実質経済成長率・ＧＤＰにおいても回復感に乏しいことは明白となっています。また賃金の上昇率が低く、家計には、景気回復の恩恵は少ないのではないでしょうか。

日本の人口は二〇〇七年をピークに減少を始め、二〇五〇年には一億人を割るとの予測がされております。団塊世代の大量退職や少子高齢化の影響を受け、今後の日本経済は大きく変化するでしょう。

不安材料はありますが、これから日本経済が一歩ずつ前進するためには、根本社長のような強い信念と優しさを、多くの日本国民がもつことだと考えます。

春の暖かさと明るい日本が待ち遠しいものです。